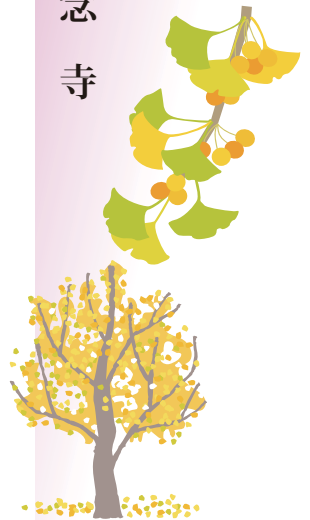


ふるさと探訪

第30回 専念寺



▲ 約180年の歴史を持つ立派な本堂

▶ 山門（写真右下）と比べてもその大きさがわかる銀杏の大木

専念寺は慶長8（1603）年、村上龍之進により創立されました。当時は小松藩大頭村にありましたが、後に現在の地である丹原の徳能に移されました。また、専念寺という寺号は宝永元（1704）年に公称されたものです。現在の本堂は、文政12（1829）年に再建されたものであり、鐘楼堂は昭和29年9月20日の台風15号により倒壊したため、翌30年に再建されたものです。

ここ専念寺には樹齢が約360年にもなる銀杏の大木があります。この銀杏の木は寛永20（1643）年に第2代の住職である了善が、開基である村上龍雲の一周忌法要を記念して植えたもので、記録によると文政12

（1829）年の台風の時に、幹の中心から半分折れたり、戦時中に米軍機の目印になるということで幹先の切り口が50センチメートルで切られたりした受難の時代もありましたが、現在は元のような堂々とした威容を誇っています。この木は、昭和57年11月20日に旧丹原町の天然記念物に指定されました。

■住所 丹原町徳能383
■駐車場 あり（無料）

